

史料 河原子海水浴案内 〈抄録〉

著 者…樂山仙史

序 文…野口勝一

出版年月…明治三十五年五月（凡例による）

出版者…海水浴組合（奥付を缺いているが表紙から判断した）

ページ数…本文五十ページ

大きさ…縦17・4 cm 横12・3 cm

体 裁…活版印刷

〔凡例〕

翻刻にあたって次のとおり取り扱った。

一 漢字・仮名の濁点、文章中の読点（句点はない）は原文どおり。ただし全角字・変体仮名は仮名に直し、明らかな誤植は修正した。

二 本書にある目次と本文は一致しない箇所がある。

三 「〔 〕」は編者による註記である。

〔表紙〕

「 樂山仙史著

河原子海水浴案内

附近名勝旧蹟

海水浴組合」

序

河原子海水浴遠坊（へつじ）二百餘年前云。余聞之予是常北山村。昔種種葦草者。暑日在葦葉綠幹之間。煙毒侵入。爲之釀疾者多矣。洗身於海水。即毒去體健。是以秋初。出于海濱。以取温浴。是爲其初也。余嘗遊巖島。見弘法大師温海水浴人之遺蹟。是蓋海水浴元祖歟。在關東者。常海爲最舊。河原子其一也。則謂之關東海水浴元祖。不亦可乎。河原子案内書成。因書此爲序。

明治三十五年晚齋

河北

野口勝一

〔改訂〕

凡 例

一 常磐線ノ開通シテヨリ以來當河原子町ニ於ケル海水浴ヲ目的トシテ來遊セラル、貴女紳士日一日ヨリモ多キヲ見ル此レ當地ノ狀況及ヒ附近ノ勝地ヲ紹介スルカ爲メ此書アル所以ナ

リ

一 本書ノ編纂ニ方リ總ヲ簡略ヲ旨トシタリト雖モ實地ニ就テ博ク考証ヲ求メ專ラ要領ヲ記シタルモノナリ

一 本書ハ忽卒ノ間ニ起草スルモノナレハ或ハ誤脱ナキヲ保セス幸ニ識者ノ教示ヲ賜ハ、光榮之レニ過キス

一 本書ハ當河原子町ノ進歩ニ伴ヒ漸次改正増補シ更ニ發行スルコトアルヘシ覽察宜ク之ヲ諒セヨ

明治三十五年五月

著者識

[改丁]

目次

河原子町 沿革 地勢 名産

◎海水浴旅館

岩崎樓 樂遊樓

阪本樓

永野家

三崎家

泉家

山崎家

眞砂家

姫之湯

◎鯛味噌并鹽辛販賣店

問宮祐之介 永井哲次郎

後藤岳吾

鈴木億太郎

◎名勝 舊跡 料理店

笹家

鮎川亭

鶴家

櫻家

東福寺

郵便局

運送店

烏帽子岩

一ツ島

二ツ島

鶴ヶ鼻

天神森

諏訪之宮

梅林

眞弓山

泉ヶ森

諏訪水穴

鮎川ノ香魚

小泉家別邸

◎鯉節製造業

中内藏之介

鈴木繁太郎

鈴木文平

大内徳太郎

大内藏之介

鈴木治郎八

◎瓦製造業

松田教藏

海野次七

埜友藏

長山西之介

鈴木佐太郎

◎石灰製造家

大窪義一

◎漁業組合

◎寒水石工場 附其事歴

◎里澤五郎墓

◎河原子町役場

◎海水浴營業組合

◎河原子尋常小學校

◎海水浴心得

海上ノ空氣ト衛生

海水浴場

小兒療養所

海水ノ性質

海水浴ノ用法

海水浴治療法

◎補遺

◎河原子附近狩獵地

◎勇家人力車帳場

[改丁]

河原千町

ハ常陸國多賀郡ノ南部ニ在リ東ハ海ニ面シ西南北ハ総テ全都國分村ニ接シ茨城縣廳ヲ距ルコト七里二十三町日本鐵道會社下孫一停車場ヲ隔タル僅々六十町余ニ過キス

沿革

往古久慈郡ニ屬シ密月郷ノ管下タリシカ文祿年間多賀郡ニ編入ス
土石、大鹽室、草山、那智山、樺澤、孫澤、荒神山、大塚ノ小字ヨリ成ル

地勢

古ヨリ名勝ノ名アリ、就中地大洋ニ對スルカ故ニ最モ觀望ニ富ム、海水浴トシテ全國ニ比スヘキ處ナシ、當地ハ天然ノ岩脉ヲ廻ラシ宛然堤防ヲナスヲ以テ危難ノ虞ナキ而己ナラス、岩低フシテ水面ヲ出テス、潮流常ニ相往來ス、偶々暴風雨ノ際ト雖モ、一旦此岩堤ノ遮キル處トナルカ故ニ波浪ノ勢ヲ殺キ、殊ニ周圍悉ク岩石ナケレハ實ニ平穩ニシテ毫モ危險ノ恐ナシ殊ニ暖潮ノ往來スル所ナレハ深淺毎ニ其宜シキヲ得テ、夏時ノ海水浴ニ於ケル實ニ無雙ノ好場タリ、

日本鐵道會社力會テ常磐線ヲ開通スルヤ、沿岸地方稍ヤ舊時ノ面目ヲ一變シ頗ル見ルニ足ルモノアルト、俱ニ我河原千町ニ在テモ各旅館ニ各商賈ニ至ルマテ、凡テノ設備ニ心ヲ竭シ大廈高

樓ヲ新築シ以テ遠近來遊ノ便ニ供ス、思フニ海水ノ事タル素ヨリ衛生ヲ旨トシ精神的保養ニ適セシモノアルヲ以テ仮令土地空氣尙ナカラ其宜シキヲ得ルモノアルモ物價不廉ニ待過懇切ヲ缺ク時ハ折角ノ來浴諸君ノ不快ハ勿論加之到處ノ弊トシテ意外ノ價ヲ貪リ輕薄實ニ驚クヘキモノニアルハ世上滔々皆ナ然リトス、故ニ二タヒハ足ヲ入ル、モ決シテ再遊セラル、コトアルコトナシ、此レ東京附近ニ大磯、熱海其他近來世人ノ記憶ニ上ルモノ多キモ一時ハ全盛ヲ極メ世上ノ耳目ヲ惹ク事少ナカラサルニモ拘ハラズ、要スルニ唯タ目前ノ私利ヲ事トシ土地ノ繁榮ヲ圖ルヲ忘レ終ニ信用ヲ失ヒ足、再ヒ其地ヲ踏ム可カラスト謂ハシムルニ至ル、而シテ我河原千町ノ地タル固ヨリ單ニ空氣ノ清淨ナルニ止マラス風俗敦厚ニ而カモ潮流平穩ニ大洋碧明ニシテ磯崎ノ岩岬ハ黛ヲ遠巒ノ間ニ描キ、遙ニ大津小名濱ハ遠ク影ヲ水ニ涵シ一タヒ此境ニ接セハ、榮辱ヲ浮世ノ外ニ忘ルヘシ

藤田東湖、曾テ屢々此地ニ來遊シ、其風光ヲ愛セリ、詩アリ證スルニ足レリ、

眼界東窮崑崙州、千尋絕壁是吾樓、
世間富貴王公樂、不換先生一日來。

名産

(事蹟雜纂)ニ曰ク義公 鎌倉ノ海老江之島ヨリ取り寄せテ、河原子ノ海ニ放ツ、今ニ至リテ、コノ濱ニ海老アリ、

近來ハ當地有名ノ漁業地ト目セラルヲ以テ鮑、松魚、海老等ハ最モ名アルモノナリ、網ヲ投テ竿ヲ揮テ直ニ食膳ニ供スルヲ得特ニ土産物トシテハ鹽辛アリ、鯛味噌アリ調製ニ注意スルカ故ニ他地方ニ比シテ風味頗ル優等ナリ、

○海水浴旅館

岩崎樓

ハ烏帽子岩ニ相對シ最モ眺望絶佳タリ殊ニ新築ノ家屋壯麗ニシテ頗ル清潔ヲ極ム、加之從來海水浴トシテ世上ニ知ラル、ノ舊家ナレハ料理新鮮ニシテ都鄙人士ノ口腹ニ適シ評判至テ宜シ、取扱丁寧懇切ナレハ四時トモニ游客ノ間斷ナシ、暑中ニ至レハ豫メ通知シ置カレサレハ空席ナキニ至ル警昌モツテ知ルヘシ、全樓ニハ新座敷ト舊座敷トノ二種アリ、浴客ノ望ニ由テ何レトモ随意ナリ

樂遊樓

ハ海岸極メテ適當ナル地位ヲ占メ、樓ハ三層ニシテ貴顯紳士ノ投宿ニ適當ナルハ勿論何人ト雖モ亦タ可ナリ、月ニ雪ニ觀賞最モ妙ナリ、主人小泉哲太郎君ハ曾テ有志團ニ知名ノ士ナリシカ深ク感

スル所アリ、當地ノ發達ヲ計ルニハ固ヨリ種々アリト雖モ、天然の海水浴地ナルカ故ニ大ニ奮テ此業ヲ擴張セハ必ス熱海ヤ大磯ヲ凌駕スルニ足ヘシト意ヲ決テ開業シタルモノナリ心胸開豁近世得難キノ人ト謂フヘシ、器物純潔、待遇懇篤、價額低廉、割烹精巧ハ本樓ノ特色トシテ人ノ知ル所ナリ、

阪本樓

ハ海岸ニ臨ミタル内地ニ巍然タル四層樓ヲ構ヘタルモノナリ、敢テ虚飾ヲ以テ營業ノ本色トセス專ハラ實直ヲ以テ來客ヲ待ツカ故ニ総テ眞摯ニシテ華美ナラス、此レヲ以テ都人士ノ如キハ頗ル(のんき)ニシテ(心か置けぬだけ)實ニ愉快タト謂フタカ洵ニ適評ト申スヘシ、主人鈴木君ハ非常ナル熱心家ニテ改良ト云フ事ニ付テハ、終始忘レサル人ニシテ當地海水浴ノ經營ニ付テハ率先主唱シテ自ら奔走倦ム所ヲ知ラズ、座敷ノ工廣ク且ツ清潔ナル、料理ノ衛生的ナル、待遇ノ信切ナル、當地ニテモ多ク見サル所ナリ、

永野家

當地ニ於テ最モ西方ニ位スル所ニ居ラトシタル處ナリ、閑靜ニ風色ニ至ラサル所ナシ、動モスレハ軒ヲ並ヘ雜踏ヲ來シ實ニ適意悠遊ノ歡ヲ欠クハ海水浴舎ノ免レサル所ナリト雖モ、當家ハ極メテ

俗境ヲ離レ松風ヲ聽キ靜ニ眠ルヲ得ルノ閑境タリ月高く浪靜カ
ルノ夕、偶々海岸ヲ散策セハ轉々村雨松風ノ往時ヲ想起ス所アル
ヘシ、宜ナルカナ四時トモ來客織ルカ如クナルヲ、

三崎家

此レモ海ニ對セル所ニ在リ、凡テ注意周到ナレハ遊客頗ル多シ、
客ノ種類ヲ云ヘハ却テ都人士ノ如キヨリハ寧ロ地方人ヲ歡迎ス
ルモノ、如ク、價額廉直ヲ旨トシ取扱又タ懇切ナレハ其盛大ナル
コト期シテ待ツヘシ

泉 家

海岸ニ臨ミタル所ニ在リ、海水浴トシテハ當地ニ於ケル舊家タリ、
殊ニ勉強家ヲ以テ知ラル、家屋ハ宏壯美麗ヲ以テ誇ル能ハサルモ
實直ニシテ懇切ナリ、從テ諸般ノ費用低廉ナリ、

山崎家

ハ此レ亦タ懇切鄭重ニシテ人ノ貴賤ニ由テ取扱ヲ異ニスルカ如
キ通常海水浴營業者ト同シカラス、博ク迎ヒテ以テ普ク及フト謂
フ主意ナレハ平民的ニ悠遊セントスルニハ適當ナルモノト云フ
ヘシ

眞砂屋

海岸ニ沿ヒタル所ニアリ、風色最モ掬スヘシ殊ニ諸事信實ニシテ

毫モ暴利ヲ貪ルノ態度アルコトナシ飲食待遇何レモ懇到盡サ、
ル所ナシ宜ナリ游客ノ來宿スル者濱ノ眞砂ノ數ヨリモ亦タ夥シ
キモノアルヲ、

姫之湯

ハ當町ヲ北ニ距ル、凡ソ四町餘ニ在リ、抑モ姫ノ湯ノ由來ヲ聞ク
ニ曾テ此湯ノ後ニ舊館アリシ時、館主ノ姫君カ病ニ罹リタレハ、
百方醫藥ヲ用ユルモノトシテ奏効セス、或日ノ事山間ヨリ湧出ツ
ル鑛泉ヲ温メ入浴セハ必ス全治スヘシトノ注意アリケレハ直ニ
浴湯セシニ、サシモノ大病モ拭フカ如ク快癒セリ、爾來此ノ如キ
名湯ヲハ空シク埋没セシムルニ忍ヒストシテ、世人ノ助ケノ爲メ
四時隨意ニ入浴セシメタレハ、其恩澤遠近ニ洽ク姫之湯トシ云ヘ
ハ知ラサルモノナキ有様ニ及ヒ遠ク仙臺、南部地方ヨリ特ニ來ル
モノアリシト云フ、地ハ海ニ接シ山ヲ負ヒ如何ニモ山鳥幽ニ水聲
轉々淒ク一方ハ松青ク砂白ク滿目ノ風光悉ク此レ吟懷ノモノナ
ラサルハナシ

鯛味噲并鹽辛販賣店

間宮祐之介 永井哲次郎 後兼善吾 (ウヂ) 鈴木億太郎

以上四君ハ皆ナ當地ニ於テ鯛味噲ヲ專業トス、尚亦洋酒雜品ヲ販
賣ス鯛味噲ハ近來到處ニ其名ヲ聞クモ、必竟何レモ混和物多キヲ

以テ其味頗ル佳ナラサルモノ多シ、當地ニ於ケル本品ハ悉ク新鮮ナル原料ヲ用ヒ、併セテ善良ナル品質ヲ撰擇スレハ東京其外東北地方ヨリノ注文極テ夥シク、之レニ加フルニ如何ナル炎熱ニ際會スルト雖モ決シテ腐敗變味ノ恐レナキヲ以テ江湖ノ喝采ヲ博シ年々歳々需用ノ途ヲ開キツ、アリト云フ、夏時ノ遊浴諸君カ土産物トシテ無比ノ優品物ナリ、鹽辛ノ如キ其他尤モ當地ノ名産タリ

料理店

笹家アリ、鮎川亭アリ、鶴家アリ、櫻家アリ、要スルニ花二月ニ雪ニ來テ宴ヲ開キ樂ヲ共ニスルニ足レリ其レ然リ興テ侑ムルノ佳人ナキニアラサルモ未タ都人ノ満足ヲ買フ能ハサルハ聊カ遺憾ニ勝ヘサル所ナリ、今ヤ世ハ開ケ人智ハ進ム今日ノ体面ニ姑息スヘキニアラサレハ互ニ誓テ營業上ニ刷新ヲ加ヒ、進テ田舎の風習ヲ脱シ高尚ニ進ミ鄙猥ヲ除キ來ルノ方針ヲ執ルトノ事トナレハ、當地海水浴ノ發達ト同時ニ將來完全無缺ニ向フヘキモノアルヤ信シテ疑ハサル處ナリ、

就中笹家ハ近來ノ開業白尚淺キモ待遇懇切、百事輕便ヲ旨トシ勉メテ田舎の風習ヲ脱シ普ク來客ヲ迎フルト云フ

東福寺

八町内ニ在リ、眞言宗無量山慈眼院ト號ス、享保十六年鐘銘ニ由

テ觀ルモ、金剛一乘ニ密瑜珈之靈區也、トアレハ由緒ノ極メテ舊キモノナルコトハ知ルヘシ、

郵便局

郵便集配區域ハ當町、國分村、坂上村ニシテ局長ハ當町ニテ屈指ノ名望家松田教藏君ナレハ、處務凡テ迅速ニ、大ニ交通機關ノ全キヲ見ル、尚ホ爲替事務ヲモ取扱フヲ以テ、來遊者ノ爲メニハ頗ル便利ナリ、不日電信モ開通スルトノ事ナリ、

運送店

當地ニ於ケル運送店ニハ長山千太郎（運送賣社）長山魁介（通運會社代理店）ノ兩君アリ、何レモ勉強ト誠實トヲ以テ廣ク信用ヲ博シツ、在リ、夫レ貨物ノ遲速ハ世人ノ利害ニ關係スルコト最モ多ク、世事ノ進ムニ從ヒ郵便ノ如キ運送ノ如キ、交通機關ノ發展ハ一日モ忽ニ附スヘキモノニアラサルヲ以テ、夙ニ兩店ニ在テモ種々監督ヲ加ヒ世ノ希望ニ背カサルニ注意スレハ、事務日二月ニ繁劇ヲ來ストノ事ナリ、

烏帽子岩

此レハ河原子町岩崎樓ノ前ニ見ユル處ノ島嶼ヲ指シタルモノニテ、全地ノ全景ハ實ニ此レアルカ爲メト云フモ可ナリ、一ノ岩ヨリ成レルモノナレトモ、積翠滴タルカ如キ老松ハ風ノ爲メニ危カ

ラントシテ自ラ千古ノ佳色ヲ示シ、山容水態ノ奇、世上稀レニ見ル所ナリ、一個ノ活画帖ト謂フモ虚言ニアラス、

一ツ島

ハ姫ノ湯ノ前ニ突出セル所ニ在ルモノヲ云フ、山上ヨリ鹿島灘ヲ一望メハ、一髪ノ青螺、影ヲ水ニ浸ス、

二ツ島

ハ當地ヲ距ル大凡六町ノ北ニ在リ何レモ大洋ニ對シ春、夏、秋、冬ソノ趣ヲ異ニシ特ニ太陽ノ昇ルニ方リ、山色ニ映スル處、洵ニ一種云フ可カラサルノ景趣ヲ現シ、詩人騷客昆崑ヲ曳キ轉タ去ルニ忍ヒザルノ思アリトシ雅懷ヲ吐露ス、又タ以テ其非凡ナルヲ知ルヘシ、

鶴カ鼻

ハ當町ノ西南ニ在リ、最モ接近ノ地ナリ、地頗ル高燥ニシテ河原子ノ全景ヲ一眸ノ中ニ収メ、其ノ壯快ナル殆ント拙筆ノ得テ名狀ス可キモノニアラス、而カモ老松參差トシテ宛モ關西ニ於ケル舞子、亦ハ明石ニ鬢髯タルモノアリ、世人モ己ニ知ルカ如ク舞子、明石ハ今ヤ俗シテ舊時ノ態ヲ存セス、獨リ我鶴ヶ鼻ハ純然タル其体面ヲ備ヒタリ、薄暮此處ニ在テ海面ヲ望メハ、漁舟ノ磯風ニ帆ヲ孕シテ歸リ來ル、實ニ身ノ俗界ニアラサルノ快味ヲ掬スヘシ、

天神森

ハ鶴ヶ鼻ニ接シ天満宮ヲ祭ル所ナリ、松杉矗立避暑ニ最モ宜シ、海水浴ノ閑ニ乗シ一瓢ヲ肩ニシ散策トシテ適意ノ快樂ヲ求メラル、ニハ極メテ適當ナリ、

諏訪之宮

ハ鮎川村字諏訪村ニ在リ、當町ヲ距ル西北三十町ニシテ道路平坦ナレハ何人ト雖モ散策ニ不便ナルコトナシ、舊水戸藩主義公地ノ幽邃ナルヲ賞セラレ、特ニ別邸ヲ設ケラレ時々、御成アリシカトモ今ヲ去ル三十年前、之ヲ除カル、元來諏訪之宮ハ多賀野家ノ奉仕スル所ニシテ公家ハ常陸ノ名族タリ、世々其職ヲ襲フテ連綿タリ、聞ク千年守子、万年大夫ト稱スル木像アリテ上下ノ歸依、頗ル厚カリシト曾テ義公カ自筆ヲ以テ万年大夫ノ後部ニ文字ヲ認メラレタル故實アリトノ趣ナリ、

庭内清酒トシテ、蒼豆宛モ滴ルカ如シ偶マ躑躅花妍ヲ競ヒ美ヲ爭ヒ其快絶ナル殆ント羽化登仙ノ感ヲクンハアラス、必ス一遊ヲ試ミニ閩万斛ノ愁腸ヲ洗フヘシ、惜ムヘシ酒色ヲ嚮ク所ナケレハ自ラ携帶セラルヘシ、多賀野家ニ乞フテ一問ヲ借ル、時ハ悠々自適ノ樂ヲ得アル、

尚庭内楓樹多ケレハ紅葉ノ時節ニハ所謂、二月ノ花ヨリモ亦タ壯

觀タルヘシ、

梅 林

ハ此附近ニ在リ、數白ノ梅樹アリ一タヒ唇ヲ開キテ、漫爛タルニ至テハ清香馥郁トシテ遠近ニ滿チ、來リ賞スル輩群集スルト云フ、老樹榿材偏ニ春ニ魁ケテ清香人ヲ撲ソ而カモ境極メテ清幽閑雅加フルニ左右ノ峰巒指顧從テ千變万化ス、親シク其妙味ヲ解セントセハ、宜シク筇ヲ曳テ訪ルヘシ、

眞弓山

本縣久慈郡ハ世矢村ニ在リ、(常陸志)ニ曰ク、上ニ神祠アリ、羅漢松及ヒ大杉ヲ多シトス、其最モ大ナルモノハ七八圍、或ハ四五圍アリ、又太白石アリ玲瓏愛ス可ク、即チ寒水石ト云ヘタルモノナラン、土人ハ傳ヘテ云フ山中ニ天狗アリ、甚タ白石ヲ愛シ、人アリ白石ヲ取ルモノアレハ、其後必ス石ヲ以テ其屋上ヲ擊ツ、其人過ヲ悔ヘ白石ヲ山ニ還ス則チ止ム

又曰ク、古昔八幡太郎義家、奥州陣ノ時、此山ニ參籠シ、祈願ノ事アリ、仍テ其陣ヲ陣ケ崎ト云フ、義家此處ニテ六月朔日ヲ元日トシ越年ノ祝アリ、其時山内ニ雪降り、義家ノ坐セラレシ所石トナリ今ニ膝懸石ト云フ、寒水石アリ、「郷黨遺聞錄」ニ眞弓山ハ麓ヨリ一里餘ニシテ山上ニ至ル、山嶮ニシテ岩石ヲ傳ヘ、權現ノ

社頭ニ出ルニ五尺七寸ホトノ寒水石、イクツト云コトモナクアリ、絶頂ハ皆岩石ナリ、其岩石ノ上ニ、社頭本社拜殿莊嚴ナリ、破風口ノ紋、或釘隱等ニ五本骨ノ開扇ニ、日ノ丸ヲ出シタル紋アリ、佐竹氏ノ造營ナリ、本山派年行事徳壽院守護セリ、杉ノ大木二本アリ、一本ヲヂイ杉ト云、本社ノ後ニアリ、巖窟ノ所ナレハ、至ルコト不叶、一本ハバ杉ト云フ華表ト樓門ノ間ニアリ、目通りニテ二丈餘マハル、山深クシテ天晴レタル時サハ、中央ヨリ上ハ木ノクラク森々タリ、マシテ陰ル時ハ、山ノ上ハ霧クラクメミエカダシ、

『雨夜伽』ニ云眞弓ハ麓ヨリ一里餘ニシテ山上ニ至ル、山嶮ニシテ岩石ヲ傳ヒ、權現ノ前ニ出ルニ、五尺七尺三尺程ノ寒水石アリ絶頂ハ皆岩石ナリ

大久保風穴

「水戸領地理誌」云多多珂郡大久保羽黒澤ノ内ホウシホウト云フ山ノ半腹ニアリ、洞口四尺許リ、身ヲ屈シテ斜ニナリ入ルコト四町二步、平所ニ出ツ、潤方壹丈餘、高キ事ニ丈餘、四方絶壁削り成セルカ如シ、南ノ方高一丈二尺ニシテ穴アリ、梯子ヲ以テ昇リ、平ニ行クコト二十五步石間アリ、幅四尺許リ、其深キコト幾許ト云フテ知ラス、水ノ流ル、音アリ、試ニ石ヲ投スルニ、

巖稜ニアタリ、斜ニ落ルカ如ク、須臾ニシテ、水ニ墜ル響アリ、又石間ニカケハシ、テ渡リ行事五六歩ニシテ、急ニ下ル穴アリ、礫石多ク、足ヲ留ガタシ、ヨツテ歸ル事アタハサルヲ恐レ、人其先ニ行ク事ナシ、人洞口ニ入ラントスレハ、中ヨリ風生ス、故ニ風穴ト名ツク、

泉ヶ森

全郡水木村ニアリ、村中泉川アリ周回二十町餘、清泉地中ヨリ涌出ス、若人聲ヲ發スル時ハ、其涌出最モ強ク、八九寸或ハ一尺ニ至ル、

「風土記」ニ久慈郡密竊里、村中淨泉、俗謂大井、夏冷冬温、湧流成レ川夏暑ノ時遠近、郷里ノ男女會集シ休遊歡樂、トアリ實ニ世間稀ナル名跡ニシテ夏時ニ於ケル避暑等ニハ最モ適當ナル所ニシテ一時ハ殆ト荒廢ニ歸シ見ル影モナカリシカトモ同地佐藤千代吉ト云フ老翁アリ、斯ル名勝ノ地ヲ湮滅ニ歸セシムルハ土地ノ不面目此上ナシト奮テ自ラ資ヲ捐テ、以テ手入ヲナシ其他注意至ラサル所ナカリシカ故ニ近來ハ面目ヲ改メ稍ヤ舊態ニ復セシモノ、如シ、

「常陸帶」ニ二十七日相川守川ナト云フ宿ヲココエツ、クレハ、コノ國ニモミカノハラ、泉河トイフトコロアリ、ケニモ名寄ニ、他

國全名ノ名所トモオホク見ヘ侍レハカナラスシモカシコノ名ヲコ、ニススミモチユルニモアラサルヘシ、イツコニモアレ、古人ノ詠ニ入テ名ヲ傳フルナン、ソノトコロノサイハヒトイフヘシ、泉ノワキイヅル所ニシバシ休フホト、

朴翁

たつねきてけふ見かの原いつみ川

名になかれたる淺瀬きよしも

諏訪ノ水穴

全郡國分村字諏訪村ニアリ(事蹟雜纂)ニ云諏訪ノ水穴、初メ入ル所廣クシテ、戸ノ如クスホキ所アリ、又廣クシテ戸ノ如キ所アリ、之ヲ一ノ戸、二ノ戸ト云、三ノ戸ヨリサキヘ入レハ、出ルコト能ハスト云、昔萬年大夫ト云フ人、此穴ニ入りテ出テスト云フ、又コノ穴信州諏訪湖ニ通ストモ云フ、此穴ニ入りシ人ノ話ニ云穴ニ入ルコト一町バカリニシテ、一ノ戸アリ、水濁タトシテ流ル、或ハ踵ヲ没シ、或ハ膝ニ至ル、二ノ戸ニ至レハ、水ヤ、深シ、肩ニ至ル所ヲ往クコト一町バカリ、凡テ三四町ヲ經テ、三ノ戸ニ至ル、戸口イツレモ狭シ、匍匐シテ漸ニ至ルヘシ、猶入ラント思ヘシガ、餘リオソロシクテ、此所ヨリ歸ル、石鐘乳甚タ多クシテ、水柱ノコトシ、紫寒水、島寒水マタ多シ、奇珍ナリト雖モ、イツ

レモ大石ニシテ、採り出スコト能ハス、三ノ戸ノ邊ニ巨木流レ出テ横タハリアルモノ多シ、又云水穴ニ蝙蝠殊ニ多シ皆ナ赤色ナリ或書ニ其穴豎貳間程南向也、一ノ關ニノ關マテ一里、初一ノ關ヲ越ルニハ口イト狭マケレハ、匏匏シテ入ル、入レハ則チ廣シ、サテ一町許ユキテ、大ナル池アリ、深サ知ル可カラス、其汀ヲアユミユク也、二ノ關ヨリ三ノ關マテ又一里入口セマシ、初メ入口ヨリ一ノ關マで一里ナレハ、スヘテ三ノ關マテハ三里也、三ノ關入口ニ西山公ノ刻マセ玉ヘリト云ヒテ、コレヨリ入ルマシト言ウヨシ也、昔公穴ニ入ラセ玉ヒ、萬年巫、万年タケト云フ、二人ノ者ヲシルヘトシテ入玉ヒシニ、二人三ノ關ニ入テ歸ラスナリニケレハ、公モコレヨリ歸リオハシマシテ、コノ詞ハエラセ玉ヘリトナシ云傳フ、

鮎川ノ香魚

ハ水源ハ全郡諏訪ノ水穴ヨリ出ル所ナリ、清流滾々トシテ夏時ト雖モ毫モ枯渴スルナシ、此流ニ香魚ヲ産ス、之ヲ漁獲シ食膳ニ供セハ、其味比スルモノナシ、

小泉家別邸

ハ助川驛ニ在リ、邸ハ氣象萬千ノ絶景ヲ一眸ノ中ニ収メ、濤聲松風ト相和シ、漁歌帆影座ニ入り來ル、眞ニ得易カラサルノ神仙境

トス、之ヲ遇鹿亭ト稱セリ、明月水ノ如キノ夜、一觴一詠清懷ヲ舒ヘ其ノ俗觴ヲ洗フ又タ風流ノ事ニアラスヤ、邸ハ水戸豪商小泉家ノ私營ニカ、ルヲ以テ他人ノ妄リニ使用スルヲ得サルヲ遺憾トス、

鯉節製造業

當地漁業家少ナカラス而シテ鯉節製造ヲ業トスルモノ、中内藏之介(横町) 鈴木繁太郎(全上) 鈴木文平(本宿) 大内徳太郎(全上) 大内藏之介(後町) 鈴木治郎八(全上)ノ諸君アリ、皆ナ共進会及ヒ水産會等ニ出品シテ頗ル名聲アリ、夙ニ世人ノ知ル處トナルヤ久シ、今ヤ全國沿海ノ地トシテ鯉節製造ノ盛大ヲ見サル處ナシ大ニ奮テ斯業ノ改良發達ヲ期セハ獨リ諸氏ノ面目ナルノミナラス、五縣公共ノ利益タル決シテ淺少ナラサルヲ知ルヘシ

瓦製造業

當地ノ瓦製造ハ遠ク天明二年ニ始リ松田教藏君(郵便局長)ノ先代松田與市君ノ經營スル處ニカ、ル、始メ本業ヲ開カ、ルヤ世ノ需用極メテ少ク前途頗ル掛念ニ堪ヘサルモノアルニモ拘ハラズ、與市君ハ百難ヲ排シ毫モ屈撓セス飽マテ刻苦勉勵 稍ヤ世ノ歡迎セラル、處ナルヤ一層製造上ニ改良ヲ加ヒタリ、殊ニ其質堅硬ニシテ世上普通ノ瓦ト同視ス可キモノニアラサレハ、遠近競フテ之

ヲ使用スルニ到レリ、當代教職君ニ及ヒ專心意ヲ決シテ斯業ノ爲メニ拮据至ラサル處ナキノ結果、茨城縣師範學校其他建築ニ指定セラレテ数万ノ用瓦納品ヲ命セラル、且ツ將來ノ進歩大ニ見ル可キモノアルハ信シテ疑ハス

海野次七、埴友藏、長山西之介、鈴木佐太郎等諸君盛ニ製造ニ從事ナシツ、アレハ他日當地ノ特有産物タルニ至ルヤ必セリ、世間ニテハ往々當地ノ製瓦ニ對シ少シク價額ノ高キヲ喋々スル輩ナキニアラザレトモ、此レ必竟其製器品ノ他ニ比シテ極メテ堅硬久シキニ耐ユルヲ知ラザルノ徒ノミ

石灰製造業

國分村大字大久保大窪義一君夙ニ石灰ノ製造ニ着手シ爾來種々心ヲ碎キテ改良法ヲ研究シ、方今各地へ輸出スルノ數、日二月ニ多キヲ加フ、今ヤ石灰ノ需用ハ獨リ家屋ノ構造ニ必要ナルノミナラス肥料用ニ用ヘテ最モ必要ナル物トナレリ、然レトモ業ノ擧クルト否トハ抑モ其人ニ待ツ處ナキニアラス義一君ハ熱心克ク事ヲ行フ人也、仮令如何ナル故障ニ逢偶スルモ亦タ必ス能ク忍ヒ奮テ為ス處アラバ前途大ニ見ル可キモノアルハ明白ナリ

漁業組合

世ノ未タ開ケス人智尙未タ發達セザルノ時ニ方リテハ、何事モ充

分ノ設備ヲ欠クハ往々免レサルノ弊トス、當地漁業ノ組合ヲ設クルヤ遠ク明治十九年ノ交ニ在リ、當時ノ戸長小泉哲太郎君(今ノ樂遊樓主人)夙ニ見ル處アリ漁業組合ノ必要ヲ同業者間ニ説キ共同一致シテ斯業ノ發達ヲ計ランコトヲ百万計画スト雖モ、時運未タ其機ニ接セザルガ故カ、種々ナル苦情ヲ唱ヒテ贊同スルモノナカリシ、而シテ稍ヤ漁業家モ大ニ察スル所アリ、今君ノ意ニ贊成シ間接直接ニ團體ノ必要ヲ感シ終ニ一個ノ有力ナル組合ヲ設ケ、永井七次郎君組長トナリ爾來着々實効ヲ奏シ、漁業家モ内外其利便ヲ受クルニ及ビケレバ、人々深ク其先見ノ明ニ服シタリキ、當町長鈴木健太郎君代テ組長トナルニ至リテ組合ノ規約等ヲ設ケ万般ヲ整理シ、專フ舊債ノ固結シテ解ケザリシモノヲ洗除シ來テ協同併進ノ實ヲ擧ルニ至リシハ眞ニ賀スヘキノ至リナリ

寒水石工場 附其事歴

眞弓山ニ在リ國分村字下孫長山佐七君ノ獨力主宰スル所ナリ、夫レ世上寒水石ノ産出地之レナキニアラズト雖モ、各地ニ比シテ尤モ優等絶品ナルハ普ク内外人ノ確知スル處ナリ、現二年々ノ輸出夥シキニ徴スモ販路ノ極メテ廣大ナルモノアルハ知ルヘキナリ、曾アヨリ現ニ大阪府ニ支店ヲ設ケ又々、東京京橋區木挽町ニ並ニ横濱市ニモ各支店ヲ置キ、專ラ内外人ノ需用ニ応シツ、在リ、聞

ク長山佐七君ハ年稍ヤ老タレトモ公共ノ爲メニハ一身ヲ挺シテ奔走盡力毫モ倦ム處ナシト、

蓋シ今日ノ國益ハ外國市場ニ輸出シテ其利ヲ収ムルヨリ急ナルハナシ、区々内國人ヲ相手トシテ利益ヲ争フガ如キハ、取モ直サス蝸牛角上ノ一私事タルニ過キス、思フニ寒水石ハ歐米商界ノ注目ヲ惹ク已ニ久シ、近來ハ英人佛人遙々來テ實地ヲ視察スル者アリト云フ、此際天然ノ富源ヲ利用シ以テ與國ノ公利公益ヲ企画セバ獨リ一長山君ノ爲メノミナランヤ、洵ニ國家ノ一大富源タルヤ智者ヲ待ツテ知ラサル也、吾人ハ聊カ由來ヲ記シテ以テ參考ニ供セントス、

産地製造場

茨城縣常陸國多賀郡國分村大字下孫五十七番地ニ於テ製造ス

素質

常陸國久慈郡世矢村大字眞弓字屏風ヶ嶽寒水石

開業沿革

今明治三十五年ヲ距ルコト百九年前、寛政六年中三代ノ祖長山佐七始メテ開業ス、初メ信州石工某來テ同郡助川驛ニ住シ、寒水石ヲ以テ巧ニ種々ノ器品ヲ製ス、佐七幼年ヨリ石工ヲ好ミ此匠ニ從テ業ヲ習ヒ、年廿ニ家ニ歸リテ製作ヲ専ラニス、水戸家

御用ノ名ヲ蒙リ諸器ヲ作り、年々此レヲ納ムル者頗ル多シ、遂ニ良工ヲ以テ名アリ、水戸烈公弘道館ヲ設ケ、館記ノ碑ヲ建ツルニ方リ、佐七年老テ工ニ從事スル能ハス、弟子忠澤常吉命ヲ承テ石ヲ山中ニ採リ業ヲ終ヘスシテ止ム(碑ハ他人ノ手ニテ成功セリ)佐七寒水石中ニ青口交纏シテ白(自)然ニ雲煙ノ狀ヲ顯ハスモノヲ擇ヒ富士山ノ形ヲ作ル、上方雪ヲ戴キ中腹雲ヲ横ヒ、雅致頗ル愛スヘシ、四方争テ之ヲ購ヒ富士山石ノ名大二高シ、今ニ至ルマテ隣近之レヲ作ルモノハ皆佐七ノ遺法ナリ、嘉永五年九月死、年八十才ニ二代儀平父ノ業ヲ襲キ水戸家御用ヲ勤ム、水戸家金魚鉢ヲ幕府ニ獻セント欲シ、普請方太田倉吉其事ヲ擔當シテ儀平ヲシテ之レヲ作ラシム、藩家其巧ヲ嘉ミシ金百疋ヲ賜フテ之ヲ賞ス、明治七年始メテ寒水石産區ヲ出願ス、儀平明治十九年死ス年七十三、

三代佐七石雲ト號ス、父ニ習フテ石器ヲ製ス、明治八年家ヲ嗣キ家業ヲ修ム、翌年大鳥工部大輔、伊太利人「ランクサ」氏ト共ニ寒水山ヲ調査センカ爲メニ當郡ニ來ル、佐七案内シテ山ニ登ル「ランクサ」氏佐七用ユル處ナル舊形ノ鑿器ヲ見テ、其疎大ニシテ石ヲ損スルコト多ク工事ニ不利ナルヲ告ケ、而シテ小形ノモノヲ用ユルノ利ヲ説キ、其製ヲ授ク、是ヨリ工夫ヲ凝ラ

シ其教ノ如キ鑿器ヲ作ルニ工程ヲ進ムルモ他日ニ倍ス、
十一年東京石間屋小川千太郎ト俱ニ工部省御用ヲ命セラレ、謁
見所御用石材ヲ調進スルモノ大小角材二千四百挺ナリ、十二年
ヨリ東京石工高橋大助、山崎喜三郎ト俱ニ宮内省ヲ始メ有栖川
宮、北白川宮、伏見宮、閑院宮、御用石材ヲ納ムルモノ十七ヶ
年間ナリ、

十八年中、水戸黨尊神社前ニ直徑四尺五寸ナル八角ノ井筒ヲ作
ル、神社參拜人ノ之レヲ見テ寒水石ノ用ヲ知り、遠近來テ諸種
ノ器品ヲ注文スルモノ殊ニ多シ、二十二年一月、茨城縣知事ハ
管内農工業者有功者十八人ヲ擇ヒ、金ヲ賜フテ此ヲ奨勵ス、佐
七擇ハレテ其一人タリ發令書左ノ如シ

金貳拾圓

父祖ノ遺業ヲ襲キ寒水石彫刻ノ業ニ従事シ爾后其技ニ長シ
石材彫刻中其萃ヲ抜クニ至ル依テ頭書之通リ下與候條益勵
精スヘシ

明治二十三年一月二十日 茨城縣知事 安田定則

今年十一月

天皇陛下

皇后陛下 水戸ニ行幸啓遊遊ハサルトキ寒水石皿御買上アラセラ

ル、ヲ以テ磯貝茨城縣書記官ヨリ左ノ書ヲ付與セラレタリ

本縣勸業見本品陳列場へ兼テ出品ニ係ル其許製造ノ寒水石
皿今般

行幸啓ニ際シ行在所ニ於テ

御親覽被遊尚御買上相成候ニ付テハ將來一層勵有之度知事
ノ命ニヨリ此段申入候也

明治廿三年十一月一日 茨城縣書記官 磯貝靜藏

長山 佐七殿

同月十勝石彫刻出來送附セシニ該品直子ニ

皇后陛下へ獻納シタル由ニテ左ノ書信アリ

過日御來訪被下別シテ忝ナク御禮申上候陳ハ御頼ミ致候十

勝石殊ニ御見事ニ御出來相成幸兩陛下行幸啓ニ際シ直子ニ

皇后陛下へ獻納仕候處御親覽御満足被爲在 皇太子殿下ノ

御手遊品トシテ御持參被遊候實ニ貴下ノ名譽此上モナキ次

第二御座候付テハ彫刻料御知ラセ給度日別封粗品貳御高禮

ノ印迄進呈致候御笑留被下度候頓首

安 田

長 山 様

二十五年軍艦裝飾石材八個ヲ横須賀鎮守府へ納ム

二十六年同石材貳個ヲ同府ニ納ム

二十七年三月銀婚ノ大式ヲ祝シ奉リ寒水石直徑五寸ノ玉貳顆ヲ獻シ左ノ畫面ヲ下與セラレタリ

一 白寒水石玉 貳顆

長山 佐七

右大婚ニ十五年御祝典ニ付獻納候段

御満足被思召候事

明治二十七年三月廿三日

宮内大臣子爵 土方久元

廿八年第四回内國勸業博覽會ニ寒水石彫桐葉形平皿ヲ出品シ

左ノ褒狀ヲ授與セラレタリ

第四回内國勸業博覽會褒狀

茨城縣多賀郡國分村

寒水石形桐葉形平皿

長山 佐七

河原 徳 立

審査官 從六位上學博士中澤浩右太

勲五等 鹽田 眞

審査部長 正四位勲四等 前田正名

審査總長 正三位勲二等 九鬼隆一

審査總長ノ申告ヲ領シ茲ニ之ヲ授與ス

明治廿八年七月十一日 總裁大勲位 彰仁親王

テ三十三年 皇太子殿下御結婚ノ大式ヲ祝シ奉リ寒水石製花

瓶壹顆并同製桐葉形皿壹顆ヲ獻シ左ノ畫面ヲ下與セラレタリ

茨城縣多賀郡國分村

長山 佐七

一 寒水石製花瓶

壹顆

一 同製桐葉形皿

壹顆

右

皇太子殿下御結婚奉祝ノ爲メ獻納候段御満足被思召候事

明治卅三年五月十日

東宮大夫候爵 中山 高麿

黒澤五郎墓

君ハ保高ト稱ス五郎ハ俗名ナリ、弘化元甲辰五日當地ニ生ル、文久元年五月外國人ヲ品川東禪寺ニ襲フテ其志ヲ達セズ、潜ニ常陸ニ歸リ居ルコト年アリ全三年五日閣老安藤對馬守ヲ江戸坂下御門ニ要撃シ重創ヲ被テ死ス、時二十年十有九、文久三年十月二日藩命アリ當地ニ歸葬ス、墓ハ當地字日向ニ在リ、明治二十二年五月六日靖國神社ヘ合祀仰出サル

河原子町役場

ハ町ノ中央ニ在リ、且下假役場ニシテ新築セス、然レドモ事務整頓シテ町民ノ便利此上ナシ、加之町長助役ノ勉勵ナルト改良ニ鋭

意ナルカ故ニ、當町ノ設備完全ナルヲ見ルハ決シテ遠キニアラザルベシ

海水浴營業組合

海水浴ハ方今ノ流行物タルベシ、而シテ其弊害必スシモ之レナキヲ期セス、此ニ於テ同業者互ニ力ヲ協セ、其弊ヲ除キ其宜シキニ進メバ、來遊者ノ便益頗ル大ナルモノアリ、當町モ年々來浴者多キヲ來シ隨テ諸事改良ヲ要スベキモノアルヲ以テ、組合ヲ設ケ總代ヲ置キ百事ヲ進行スルコト、ナセリ

河原子尋常小學校

町ノ東方最モ高燥ニシテ眺望ニ富ムノ地ニ設ク、生徒總數男女三百三十人アリ、高等科ハ男女五十八人アリ、國分村ト聯合シテ大久保ニ設ク

海水浴浴心得

海水浴浴ハ一日二回ヲ以テ度トスヘシ但シ最初ハ隔日位ニ行フヲ良シトス

浴浴時間ハ溫度ニ依リテ別アリ先ツ最初ノ一週間ハ五分内外、次ノ一週間ハ十分内外、最後ノ極度ハ二十分内外ト為スヘシ但シ氣溫華氏九十度以上七十度以下ニアリテハ共ニ浴浴スヘカラス

六十歳以上ノ老人四歳以下ノ嬰兒ハ共ニ水中ニ伴フヘカラス其他衰弱甚タシキ人、神經病者、脊髓又ハ心臟ニ疾患アル者、痛風病者、出血流産ノ僻アル者及咯血患者ハ海水ニ浴浴セサルヲ宜トス殊ニ咯血患者ハ多年咯血ヲ見シテ恰カモ全治シタルカ如キ觀ヲ呈セシ人ニアリテモ往々海水浴場ニ於テ浴浴ノ結果突然咯血スルコトアリ最モ注意セサルヘカラス

四歳以上ノ小兒ニテモ強健ナル者ニアラサレハ水中ニ浴セシムヘカラス又其時間ハ三四分ヲ超エサルヲ可トス水中ヨリ引揚ゲタルトキハ直チニ着服セシメテ少シク海濱ヲ馳行セシムヘシ殊ニ神經質又ハ孱弱ニシテ甚タシク浴浴ヲ嫌忌スル小兒及常ニ頭痛ヲ發シ易ク又ハ腦膜炎ヲ發スルノ虞アル小兒ハ四歳以上ニテモ決シテ水中ニ浴セシムヘカラス

浴浴中ハ耳中ニ綿ヲ挿入シテ海水ノ侵入ヲ豫防シ且ツ之ヲ飲下サ、ルヤウ注意スヘシ浴浴後入湯スルノ必要ナシ但シ淡水ヲ以テ頭髮及顔面手指等ヲ洗ヒ淨拭スレハ一層可ナリ

以上ノ外、浴浴心得方ニ關スル細目ニ就テハ獨逸國ノウヰヤチング氏カ定メタル浴浴規則ナルモノアリ左ニ其大要ヲ紹介スベシ

〔以下十六ページにわたり〕「海上ノ空氣ト衛生」 「海水浴場ノ小兒療養所」 「海水ノ性質」 「海水浴ノ用法」 「海水浴ノ療法」 が記載さ

れるが略す」

補遺

河原子附近ニ於ケル狩獵地

方今狩獵ノ盛ナル到處トシテ皆ナ然ラサルナシ、而シテ吾地方タル近ク眞弓山、大雄院山、遠ク高鈴山、花園山一帯ノ地何レモ唯、野猪、猿等ノ産地トシテ博ク世人ノ注目ヲ惹キツ、アル所タリ、顧フニ今日ニ至テハ東京附近乃チ千葉、神奈川、栃木各縣ニ狩獵家ノ屢々足跡ヲ印スル所ニシテ、最早始ント鳥聲タモ耳ニスル能ハサル所トハ皆チ其邊ニ堪能ナル諸士ノ認知セラル、モノナレハ、敢テ吾人カ辨ヲ待ツテ後ニ知ラス、

我地方タルヤ、前陳ノ如ク、狩獵ノ山海アリ、双手ヲ擧ケテ諸士ノ來遊ヲ待チツ、アリ、趣味多ク、得物ノ頗ル多キモノアルカ故ニ、一ハ海水温浴ヲ兼ネ精神的修養ニ、山間ニ遊獵ヲ試ミラル、以上ハ、其攝生無比ノ利益タル、吾人ノ言ヲ待タス、今ヤ狩獵ノ枝折トシテ最モ多キ種類ニ付キ、一班ヲ示サン、

雉原野ニ棲ム其狀家鷄ニ似タリ、毎年二月ヨリ三月ニ至リ音ヲ發ス、山谷原野ノ地勢ニ由リ其區域ヲ限リ、妄リニ他ノ區域ニ出テス、兎其棲ム場所ハ原野、山林、竹藪等ニシテ、最モ日當ヨキ所ヲ常巢トス、野猪其狀豚ニ似テ、山間ニ棲息ス、其性暴ニシテ、

一タヒ銃傷ヲ被ムレハ、所謂死物狂トナリ、益々暴威ヲ振フ、獵者ハ往々彼レノ齒牙ニ罹リテ、負傷スルコトアリ、土鳩色ハ灰色ヲ帶ヒ、朱ノ斑紋アリ大概八月ヨリ來ル而シテ、九、十兩月頃マテハ群棲スレトモ、時々分散スルアリ、早朝日出ノ頃ヨリ、其塘ヲ去リテ、日當リ宜キ閑靜ノ處ニ群集ス、鳶其性猛獮肉食鳥ナリ、

勇家人力車帳場

下孫停車場ノ前ニ在リ、當地ニ來遊セラル、諸君ハ、直ニ回家ヘ御命シノ上、何レノ浴舎ナリト投宿セラル、時ハ、極メテ便利ナルヘシ、取扱懇切ニシテ而カモ、車賃ノ如キ、已ニ仲間ニ定メアレハ、世間ノ無賴車夫カ、妄リニ他縣人、殊ニ東京人トサヘ見レハ、格外ナル賃錢ヲ貪リ、敢テ土地ノ不利ヲ來スヲ顧ミサルモノトハ、決シテ同種類ニアラサル所ナリ、此等ハ最モ海水浴發達ノ上ニ、少ナカラサル利益ト謂ヘシ、勇家タルモノ宜シク此点ニ注意シ、深ク將來ニ利スル所アツテ可ナリ

〔以下、葦原鈴虫松虫による「わびん」と題する詩と「崑崙河原子の景」「磯節」と題する詩は略〕

翻刻 二〇二〇年六月三十日

制作 島崎和夫